

平成28年度第6回 支え合うきよせ委員会
(清瀬市生活支援・介護予防サービス提供主体等協議体) 会議録 (案)
(議事要旨)

1 開催日時 平成29年3月30日(木) 午後1時30分から午後3時15分

2 開催場所 清瀬市健康センター 1階 研修室

3 出席者 支え合うきよせ委員会委員名簿のとおり
欠席 内野委員

4 次第

(1) 開会

(2) 挨拶 小山高齢福祉担当部長より

市では来年度事業の中で、健康寿命の延伸、家族介護の軽減等の充実を図っていく予定である。また、この秋以降、第二層生活支援コーディネーター配置を検討している。今日の会議では、平成29年度スケジュールや体制づくりについて提案させていただきたい。

(3) 配布資料の確認

次第

【事前資料1】支え合いの仕組みづくりの課題

【事前資料2】部会構成について①

【事前資料3】部会構成について② 支え合うきよせ委員会の取り組みについて

【事前資料4】平成29年度の進め方及び事務局からのお願い等について(案)

【当日資料1】協議体年間予定(2017年度)

(4) 議題

ア 部会構成(案)について

事務局から、支え合いの仕組みづくりの課題・部会立ち上げの背景について事前資料1を用いて説明があった。これまでの委員会や市民フォーラム等から課題が90程度挙げられている。これらの課題を解決する取り組みの項目として、9つの項目ア～ケに分類し、これらに優先順位を付け、委員会(本会)および部会で検討してはどうかと提案があった。

続いて生活支援コーディネーターから、事前資料2、3を用いて、部会構成とこれからの取り組みについて提案があった。会の構成は、本会、「地域資源・ニーズ把握」部会、及び「支え合いバックアップ」部会。この部会でこれまでに挙げた課題を踏まえながら支え合いの取り組みを進める。

委員からの質問と、検討結果は以下の通り。

①プロボノ等を活用とはなにか。¹

- ・ 社会人が自らの専門知識や技能を生かして参加する社会貢献活動。東京都内でも関わっている事例が増えている。このような活動を市内の団体に紹介することも可能である。
- ・ プロボノは社会人が、数日から1年程度の期間、余暇の時間・無償で活動するものを想定している。支え合うきよせ委員会も専門職が参加しているが、現状の委員会のように、業務時間に、有償で参加するものではない。実際の活用については、部会等で検討することを想定している。

②部会構成について

- ・ 部会構成については、今年度全体の取り組みから考えたほうがよい。部会委員の構成はどのように考えたのか。
- ・ 「地域資源・ニーズ把握部会」で訪問しニーズを把握するのであれば、団体が抱えるニーズに対する協議体の支援方法についても訪問した部会委員が行ったほうがよいのではないかと。部会人数の配置も業務量に合わせて分割してはどうか。
- ・ 「地域資源・ニーズ把握部会」の今年度の主な活動は、地域住民への意識啓発と考えている。加えて、意識啓発で訪問する中で、各活動団体の活動、会員の状況、課題等を把握し、どの地域でどんな活動が必要か働きかける為の素材を集めようとしている。
「支え合いバックアップ部会」の今年度の主な活動は、人材育成や支え合いのサービス創出と、活動場所・資金の創出。人材育成や支え合いのサービス創出は、昨年度の勉強会に引き続き5月頃に勉強会を開催し、その後、「地域資源・ニーズ把握部会」から挙がってきた課題を元に、活動場所・資金の創出を中心に、市内で支え合いの活動を立ち上げる際に必要なバックアップ手段について整備を進めたい。
- ・ 部会については、まずやってみて、途中で変更しても良いのではないかと。(結論)部会の構成については、課題と解決策の提示に同じ委員が関わった方が問題解決に速やかにつながるのと観点から、(別紙)部会構成の通り変更することを確認。事務局の担当は次回までに検討する。

③資源の調査・把握について

- ・ 資源把握については、地域包括支援センター運営協議会でも作成している。調査に時間をかけるのは無駄ではないかと。(結論)調査よりも、調査結果をより把握・活用しやすくする見える化を目的として進めることを想定。

¹ プロボノ： ラテン語の「Pro bono publico(公益のために)」からきている。社会福祉の専門職に限らず、金融、経営コンサルタント、メーカー営業、官公庁職員、デザイナー、システムエンジニア、ベンチャー企業社長等様々な経験を持った社会人が活動する社会貢献活動を指す言葉。
東京都では、「東京ホームタウンプロジェクト」として、NPO法人サービスグラントを事務局とし、1日～数カ月のプロジェクト単位で、現役で仕事をしている社会人と支え合いの活動をする団体をマッチングし、事業戦略の立案、事業評価、広報(ウェブサイトリニューアル、VTR、広報紙見直し)等を行うプロジェクトを実施している。

④地域への訪問について

- ・ 本会、部会の回数が3カ月に1回と少なく、その間に地域活動団体を訪問しても情報の共有が難しいのではないかと。モデル地区を決めて進めてはどうか。
 - ・ 委員にも各地域団体を訪問することを期待されているのか、あるいは、数か月に1度集まって話をすることだけを期待されているのかが分からない。
 - ・ 現実的に、私達委員が全てを訪問したり、資料を作ったりするのは不可能に近い。その点は専門職に任せ、まずは部会を設置し進めてもらいたい。
- (結論) 地域活動団体の訪問については、生活支援コーディネーターが中心となる。部会に係らず、生活支援コーディネーターから声をかけ、協力が可能な委員が同行訪問する。市内でモデル地区を決め、その中の活動団体を対象に進め、一定の成果を出すことを目標に進める。

⑤部会開催回数について

(結論) 本会(4回)と同時に開催を原則とするが、状況によって臨時会を開催可能とする。

⑥勉強会について

- ・ 昨年、フォーラム後に集まった方々の振り返り。他地域の見学等を想定。
- ・ 勉強会の開催箇所、参加者については、地域活動団体の訪問結果も踏まえながら検討する。

⑦今後の進め方について

- ・ 本日提案したスケジュール(案)では、2年程度の期間で、支え合いの取り組みが市内に広がっていくことを想定している。
 - ・ 10月から各包括圏域に生活支援コーディネーターが配置されることを考えると、モデル地域だけでなく、他の地域でも展開が必要ではないか。
 - ・ 前に一步でも進めていきたい。利用者にとって色々な資源が見える。支え合うきよせ委員会が活動している事も市民に見えるように進めたい。
- (結論) モデル地域を設定して立ち上げ、活発な地域を作りつつ、他の地域にも展開できるよう、進め方については本会でも検討しながら進める。成果目標については、次回部会で検討する。

⑧部会名称について

- ・ 略称として、地域資源・ニーズ把握部会をA部会、支え合いバックアップ部会をB部会とする。

イ 平成29年度の進め方及び事務局からのお願いについて

- ・ 別紙を説明し、メールにて連絡等を行うことを確認。
 - ・ 部会については、委員報酬の対象外となることを説明
- (結論) 事務局でどの程度の範囲であれば可能か検討する。
- ・ 議事録については、要約ではなく、逐語録にして欲しい。議事として扱うべきではないか。
- (結論) 事前に送付し、次回会議で確認する。清瀬市ではこのような会議は要点筆記が基本となっており、状況が分かるように要点筆記とする。

(5) 報告

ア 介護・サロンマップの発行について

- ・ 医療・介護連携推進協議会で作成し、発行。全戸配布を行った。
- ・ 委員から、医療マップについて、獣医を追加して欲しいと意見があった。

(6) その他

ア 委員退任について

高田委員が本日付で退任となる。

(7) 次回開催日

次回開催は5月16日(火) 13時半～

(8) 閉会挨拶 八巻健康福祉部長より